

学習支援推進委員会 自己点検・自己評価報告書

【履修指導】

学習支援推進委員会による取組み

目的・目標

本大学の各学部における教育理念の実現と教育目標の達成のため、2005年7月に学習支援推進委員会が設置されたことにより、全学的な学習支援体制がスタートした。これに伴い2005年度後期からは、これまで理工学部のみ開設されていた学習支援センターも、駿河台・和泉・生田（農学部）の各キャンパスに「学習支援室」として開設され、学習支援推進委員会のもとで教育学習支援活動を展開している。

近年の学生の多国籍化及び入学選抜の多様化は、これまでの画一的な学習指導では十分対応できていない状況になっており、学生個々の多様なニーズに対しては、柔軟できめ細かい学習指導が必要となっている。

この学習支援を推進するうえで不可欠なのが、各キャンパスに設置された「学習支援室」である。学習支援の具体的な取組みは以下のとおりである。

現状

(1) 学習支援室での学習指導

【和泉学習支援室】

2005年度は主に文学部のTA（ティーチングアシスタント）が中心となって学習支援を実施していたが、2006年度からは商学部・経営学部・情報コミュニケーション学部も加わり、より充実した支援ができる体制が整った。

また、2006年度から教務採用のTAを配置したことで、学部間共通総合講座の補助業務だけでなく、不足している部分の学習支援も多少補えるようになった。

2007年度後期からは、国際日本学部及び教養デザイン研究科事務室設置のため、学習支援室が第一校舎1階から地下1階へと移転した。そのため、前期までの利用者数に比べて、数的に明らかに伸び悩んだ結果となった。

【駿河台学習支援室】

2005年度は経営学部の助手が、平日の午後のみ学習支援を実施していたが、2006年度からは、経営学部の他に商学部・文学部・情報コミュニケーション学部も加わり、全学的支援ができる体制が整った。

また、和泉と同様に2006年度から教務採用のTAを配置したことで、学部間共通総合講座の補助業務だけでなく、不足している部分の学習支援も行っている。

【理工学部学習支援センター】

開設3年目を迎えて、2007年度前期は約1,200名超の利用者（延べ人数）があり、広く学生に認知されている。支援内容も理系基礎科目だけでなく、学科専門科目に関する事項も増えている。さらに、学生からの質問及び回答については、ネットワークを介して公開し、学生・TA相互が主体的に活用し、学習効果の向上を図っている。

また、2007年10月に実施された大学基準協会による実地視察においても、学習支援活動への取組みが高く評価されている。

今後もこの活動を拡充していくことが必要である。

【農学部学習支援室】

2007年度、学習支援室の利用者は確実に伸びており、昨年度に比べて5割増となっている。しかし、設置場所の不便さもあり、定期的に利用する学生が増加した反面、利用者の固定化が生じている。

今後の課題としては、学生への一層のPR活動が重要となっている。

(2) 英語未習留学生に対する補習授業

現在、和泉1コマ・駿河台2コマで外部講師による補習授業を開講している。学生のレベルに合わせて行われるこの補習授業も3年目を迎え、問題点も出てきている。単位が付与されない補習授業であるため、受講生を固定化することが難しく、次第に授業から足が遠のき、後期になると受講者が極端に減少してしまう傾向である。

今後も、生田キャンパスにおける開講も含め、検討していくことが重要である。

(3) 入学前教育の実施

早期に入学が確定した学生のモチベーションを維持し、基礎学力の低下を防ぐため、2005年度より理工学部・農学部が特別入試入学者を対象に実施している。

内容は、英語と数学に関する基礎問題の通信添削を外部業者に委託（課題及び解答解説の作成、採点添削、発送業務、報告書の作成）及び専任教員によるレポート課題（添削、講評）等を12月から翌年の3月にかけて行い、業者からの詳細なレポートは入学後の学習指導に利用している。

(4) 補習講義の実施

現在、生田学習支援プログラム「補習講義」（フォローアップ講座）として、2007年度は2回実施しており、特別入試入学者だけでなく、一般入試入学生や他地区文系の学生も受け入れている。

開設科目は、「化学」「生物」「物理」「英語」「数学」の5科目で、学生が必要に応じて参加できるように、高校の基礎的内容を一回完結スタイルで実施している。担当講師は、学部教員の負担増を防ぐため、外部業者及び付属中野高校の教員に委託している。

(5) 広報活動

2007年度は、4月に学習支援室のPRのための「明治大学学習支援」パンフレットを20,000部作成した。このパンフレットは、各学部に配布するだけでなく、スポーツ入学者ガイダンスや留学生ガイダンス及び新入生の父母説明会等で配布し、周知を図った。

また、2007年度版「学習支援報告書」を作成し、全専任教職員に配布し、学習支援の活動を広く学内に周知できた。

今後も学習支援の存在を広く周知し、学生支援を促進していきたい。

(6) スポーツ入学者横断授業の設置

2007年度から、対象学生を設置学部間の対象をスポーツ特別入試入学者（公募制・AO）全学年に拡大した。さらに、開設科目も英語科目を7学部15コマに拡充した他、新たにドイツ語科目が5学部で7コマ、フランス語科目が1学部で1コマ、中国

語科目が3学部で4コマ設置され、より学生にとって学びやすい環境が整った。
今後は、これらの科目について適切なコマ数を設置できるよう検討していく。

(7) 体育会所属学生への「授業出席確認カード」の実施

スポーツ特別入試入学者（公募制・AO）に対する授業出席向上を図るため、2006年度から、「授業出席確認カード」が導入された。導入にあたっては、毎年3月に各部の主務を集め、説明会を実施している。学部の事情により政治経済学部と理工学部が導入を見送っていたが、2007年度後期からは理工学部が導入を決め、学生サポートの推進を図っており、この「授業出席確認カード」の導入により、授業参加への意識が高まり、出席率が向上している。さらに、各授業時に自分自身でカードへ記載した「授業の内容」を復習し、学期末の定期試験における学習に活用している学生もみられる。

年2回、学期末に「授業出席確認カード」を回収し、集計した資料については、学生指導に活用するため、各部の監督及び部長に送付している。

今後もスポーツ特別入試入学の学生に、「授業出席確認カード」の周知を徹底させ、活用するための検討が必要である。

問題点

(1) 学習支援室での学習指導

【和泉学習支援室】

地下1階に移転したことで、専用の学習支援室を確保できたが、広さが不十分であり、TA及び助手の配置が困難である。

【駿河台学習支援室】

支援参加のない法律関係及び政治関係の支援に対して対応できない状況にある。

(2) 英語未習留学生に対する補習授業

単位が付与されない補習授業であるため、受講生を固定化することが難しく、次第に授業から足が遠のき、後期になると受講者が極端に減少してしまう傾向にある。

(3) 入学前教育の実施

今後の課題としては、入学前教育の導入を全学的に拡充することにある。

(4) 補習講義の実施

今後の課題としては、参加者の増加につれて、習熟度の差が出ている現状を解消していくことである。

改善方策

(1) 学習支援室での学習指導

【和泉学習支援室】

学習支援室の配置場所については、今後の和泉キャンパスのグランドデザイン構想の中で検討し、より良い支援環境にしていくことが必要である。

【駿河台学習支援室】

支援参加のない学部の院生を、教育支援TAとして採用することで、不足する支援体制を補い、更にこれら支援参加のない学部に対して、今後の参加を促していく。

(2) 英語未習留学生に対する補習授業

個々のレベルに合わせて実施する授業のため、全員が満足する形での授業が難しく、

担当する講師や受講生の声を反映できるよう、コマ数や設置のあり方や、生田キャンパスでの開講についても検討していく。また、正規科目としての単位化についても検討が必要である。

(3) 入学前教育の実施

今まで、生田キャンパスの理工学部・農学部だけが実施していたが、2008年度から商学部が導入を決めている。今後も実施学部の経過を見ながら検討し、拡充を図っていく。

(4) 補習講義の実施

習熟度の差が出ている現状を解消するため、講義内容等やコマ増について検討していく。

以 上